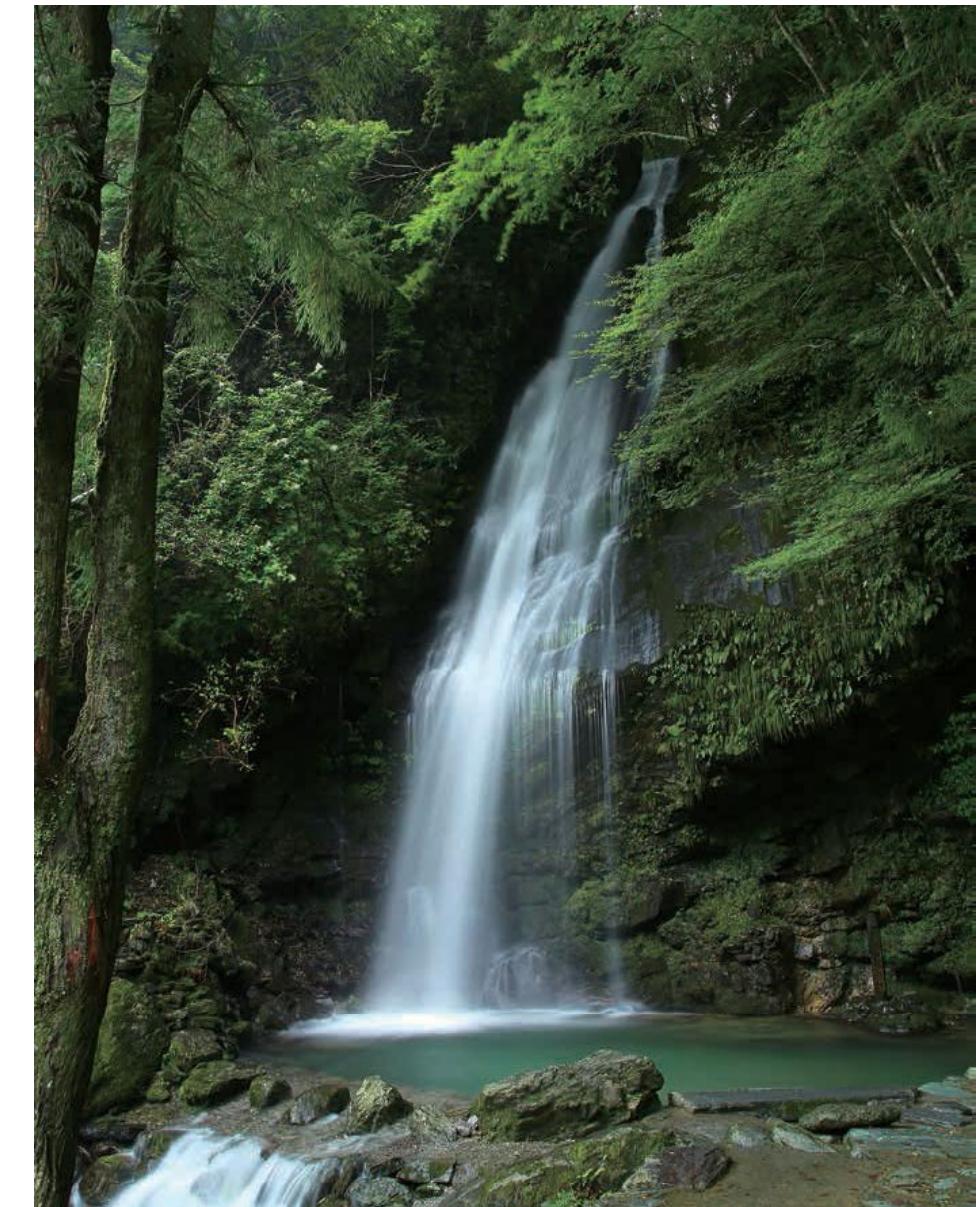


もうひとつの平家物語



眞実を隠す山

祖谷の山はたくさんの秘密を抱えています。秘密を守るために山中に分け入った人もおりました。その代表が平家の落人たちです。

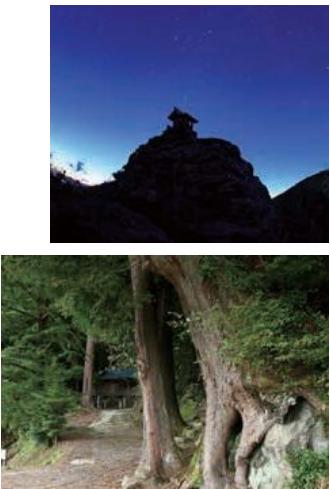
平安時代におこった源平合戦は、日本全土を舞台に繰り広げられた紅白戦。日本史に燐然と輝く一大センターでした。その話題は各地で語られ、数々の落人伝説が残されました。祖谷では落人伝説を、子どもの頃から繰り返し聞いて育つ人が大勢います。



ときには伝説は史実と異なることがあります。その秘密を解き明かすのは、ずいぶんと時が経つてしまいまして。たゞ、そういう話が語り継がれてきたというのは、まぎれもない事実。そこには語り部たちが伝えたかった眞実が隠されているはずです。

祇園精舎の鐘の声 諸行無常の響きあり
沙羅双樹の花の色 盛者必衰の理をあらわす
おごれる人も久しからず ただ春の世の夢のことし
たけき者もついには滅びぬ ひとえに風の前の塵に同じ

〈平家物語 冒頭より〉



平家伝説が幾つも残る祖谷の地。安徳帝のご火葬場跡やおまつりした神社もあり、国盛が植えたという「錘杉」や「平家の赤旗」も伝えられてきました。



祖谷の地に伝わる平家の赤旗に記された紋章は「むかい揚羽」

この地では、屋島の合戦に敗れた平国盛一族は、安徳天皇をお守りして讃岐山脈を越え、祖谷の地で過ごされたと伝えられています。眞実か否か、まずはこの地に足を踏み入れてその史跡を訪ねてみてください。